



日本列島球体模型に夢中の来館者
(2025「測量の日」特別企画 ～地図・測量に興味深・新～)

CONTENTS

1. 企画展「地図と測量に見る戦災からの復興」及び
「つくばエクスプレス開業20年－地図・写真から見る沿線の変化－」を同時開催 2
2. 「測量の日」関連行事を実施
2025「測量の日」特別企画 ～地図・測量に興味深・新～ を開催 3
3. 「日本水準原点等の一般公開」の開催報告 5
4. 第247回地震予知連絡会の開催概要 6
5. 「自然災害伝承碑」ウェブ地図「地理院地図」での公開数 7
6. 5月の報道発表・7月の主な行事予定 7

企画展「地図と測量に見る戦災からの復興」及び「つくばエクスプレス開業20年－地図・写真から見る沿線の変化－」を同時開催

国土地理院「地図と測量の科学館」(茨城県つくば市)では、特別展示室において7月15日(火)から9月21日(日)まで、企画展「地図と測量に見る戦災からの復興」及び「つくばエクスプレス開業20年－地図・写真から見る沿線の変化－」を同時開催します。

忘れてはいけな太平洋戦争終戦からまもなく80年、また、秋葉原駅とつくば駅を結ぶつくばエクスプレスが開業してから20年を迎えます。

地図と測量の科学館では、「地図と測量に見る戦災からの復興」及び「つくばエクスプレス開業20年－地図・写真から見る沿線の変化－」と題した企画展を同時開催します。

「地図と測量に見る戦災からの復興」では、戦災の概況、国土地理院の組織の変遷、地図・測量の維持継続、GHQ指令による作業、戦災からの復興等について紹介します。

また、「つくばエクスプレス開業20年－地図・写真から見る沿線の変化－」では、首都圏新都市鉄道株式会社の協力の下に、つくばエクスプレス沿線の駅周辺の変貌やつくばエクスプレスの概要・歩み等について紹介します。

二つの企画展を通じて、地図や測量に関心を深め、わが国が歩んだ戦後復興に思いを寄せていただくとともに、国土地理院とつくばエクスプレスの業務をより身近に感じていただき、親しみと興味を深めていただければ幸いです。

【主な展示内容】

■地図と測量に見る戦災からの復興

- 戦災の概況
- 国土地理院の組織の変遷
- 地図・測量の維持継続
- GHQ指令による作業
- 戦災からの復興 など

■つくばエクスプレス開業20年－地図・写真から見る沿線の変化－

- つくばエクスプレス沿線の駅周辺の変貌
- つくばエクスプレスの概要・歩み
- 空中写真で見る沿線の発展 など

<協力> 首都圏新都市鉄道株式会社



2025年7月15日(火)～9月21日(日)

9:30～16:30 (入館16:00まで)

地図と測量の科学館

国土地理院 茨城県つくば市北郷1番



あわせて「地図と測量の科学館」ホームページもご覧ください。

<https://www.gsi.go.jp/MUSEUM/>



(総務部)

「測量の日」関連行事を実施

2025「測量の日」特別企画 ～地図・測量に興味 深・新^{しん しん}～ を開催

6月1日、地図と測量の科学館（茨城県つくば市）において、2025「測量の日」特別企画～地図・測量に興味 深・新^{しん しん}～を開催し、1,600名を超える多くの皆様にご来場いただきました。

国土交通省が主唱する6月3日「測量の日」は、測量の意義及び重要性に対する国民の理解と関心を一層高めるとともに、地理空間情報のさらなる利活用の推進を目的としています。

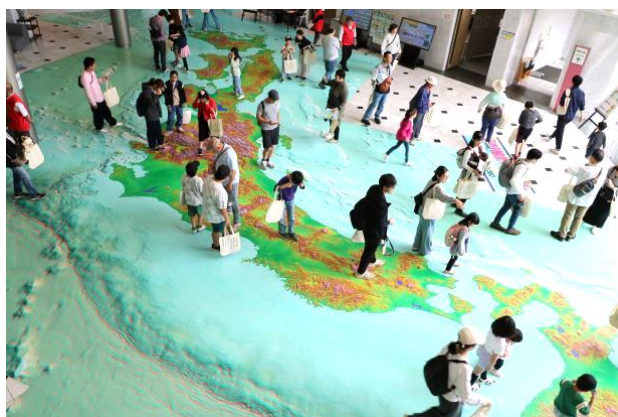
特別企画は、「測量の日」にあわせて6月の第一日曜日に開催しており、今回は地図と測量の科学館の常設展示に説明員を配置するとともに、4月1日に新たな標高体系に移行した標高改定に関する展示や、こどもから大人まで幅広い層が楽しめる測量体験イベントを6月1日に実施しました。



来場して最初に目に入るのは、床一面に広がる縮尺10万分の1陰影段彩余色立体図、「日本列島空中散歩マップ」です。

3Dメガネで観察すると、平野の広がりや盆地のくぼみ、山脈の連なりなど、国土の起伏が立体的に実感できます。

歓声を上げる方や感心する方などで賑わうその隣では、地図記号を当てるパネルクイズや、地図記号で顔を作るゲームを親子で楽しんでいる様子が見られました。

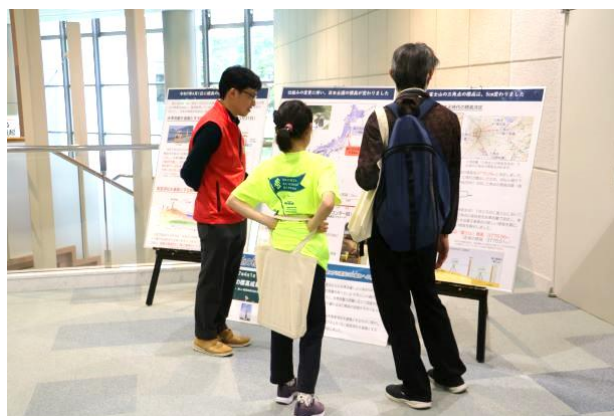


空中散歩気分を満喫中



国土地理院は、水準測量を基盤とする標高の仕組みを、令和7年4月1日に衛星測位を基盤とする標高の仕組みに変更しました。

「標高改定に関する展示」パネル前では、説明員からの改定に至る経緯や理由の説明に、多くの方が熱心に耳を傾けており、「標高改定の話が興味深かった」「分かりやすく説明してくれ勉強になった」と好評でした。

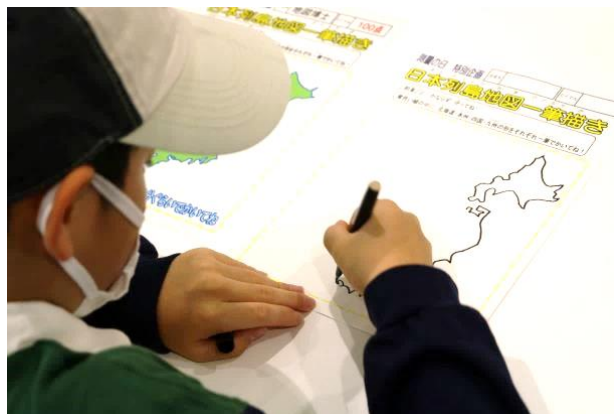


標高改定の説明に耳を傾ける来場者



「日本列島地図一筆描き」は、北海道、本州、四国、九州の4つの島をそれぞれ一筆で描いた地図をコンピュータが採点するもので、毎年多くの方に参加いただく人気の体験イベントです。

高得点を目指してチャレンジすることも達の真剣な表情と、応援する家族の姿が印象的で、高得点（90点以上）となった多くの優秀作品がパネルに掲示され、来場者の目に留まっていました。



一筆描き挑戦中

測量体験イベント「距離を測ってみよう」は、トータルステーションを使い、地球ひろばの目標（マッピーくん、マップ博士）までの距離を測るもので、こどもから大人まで多くの方に実体験していただきました。

「測量機器での距離測定が楽しかった」「測量の仕組みを体験できて良かった」と好評でした。



距離測定にチャレンジ

「地図かるた」は、地図や写真、地図記号などのカードを使った絵合わせゲームで、初級・中級・上級と難易度が違います。

「正解したら『すごい』と言われて嬉しかった」「地図記号等を改めて思い返せて良かった」と、友達同士で取り組むこども達や、家族で相談しながら解答するファミリーなどで賑わっていました。



中級問題にトライ

「地図記号クイズラリー」は、地球ひろばの地図記号10個を探し出し、記号と名前を解答する毎年恒例のゲームです。

相変わらず根強い人気で、多くのこども達や家族連れが地球ひろばを探し回っていました。



家族でクイズラリーに奮闘中

「測量用航空機『くにかぜ』機内公開」は今年も一番人気。年に数回しか搭乗できない機会に、操縦席に座りパイロット気分を味わったり、興味津々にカメラを覗いたりする姿が見られました。

「機内を見ることができて良かった」「分かりやすく説明してくれて仕組みが分かった」と、大好評でした。



「くにかぜ」搭乗待ちの行列

その他、「常設展示」「日本列島球体模型」等も安定して人気があり、来場者アンケートでも好評の声をたくさんいただくなど、多くのご来場者に、「地図」「測量」への興味を新たに深めていただけた一日でした。

国土地理院では、皆様に楽しんでいただけるイベントを今後も企画していきますので、ご参加を心からお待ちしています。

地図と測量の科学館HP

<https://www.gsi.go.jp/MUSEUM/>



(総務部)

「日本水準原点等の一般公開」の開催報告

関東地方測量部では5月21日、「測量の日」関連行事の一つとして、国会前庭北地区にある「日本水準原点」と「電子基準点(東京千代田)」を一般に公開しました。

「日本水準原点」等の一般公開は、毎年「測量の日」を目前に控えた5月下旬に行っています。今年も天候に恵まれて、約500人の見学者があり、多くの方に「日本水準原点」と「電子基準点」に関心を持っていただけました。



日本水準原点の水晶目盛板を見学する様子

当日は、測量・地図愛好家のほか、地理を学んでいる高校生や大学生、測量・土木・建築・情報処理関係の方など幅広い層の皆様にご参加いただきました。

本公開では、普段見ることができない「日本水準原点」を収容する建物(日本水準原点標庫)の内部を開放し、二つの台石とそれらを支える基礎柱、標高の基準となる目盛りが刻まれた水晶板を直接見学していただくとともに、「日本水準原点」設置当時の標庫周辺の写真、位置図、構造図、水準測量の解説などのパネルも展示しました。公開時間前から見学者が集まり、準備中のパネルや標庫の中を覗き込む人や「日本水準原点」をはじめとした測量技術の歴史について質問を重ねる方など熱心な見学者もおられました。

また、「日本水準原点標庫」の建築様式に興味を持ち、見学者同士で設計者の佐立七次郎氏とその工部大学校の同期の話題で盛り上がる場面も見られました。見学者からは、「水晶板を直接見に来られて嬉しいです」「一枚板でできた台石の大きさに驚きました」などの声が寄せられました。



電子基準点(東京千代田)の内部公開の様子

また、「日本水準原点」の近傍に設置している「電子基準点(東京千代田)」の内部を公開しました。4月からの標高体系の移行に伴い重要性の増した「電子基準点(東京千代田)」の役割と「日本水準原点」との関係の説明し、見学者の興味を引いていました。

たくさんの方のご来場に感謝申し上げるとともに、今後も引き続き測量・地図について理解を広める取組を進めてまいります。

(関東地方測量部)

第247回地震予知連絡会の開催概要

令和7年5月20日に関東地方測量部において第247回地震予知連絡会がオンライン会議併用形式にて開催され、全国の地震活動、地殻変動等のモニタリングについての報告のほか、重点検討課題に関する報告・議論が行われました。

地震予知連絡会では、地震予知研究にとって特に検討すべき課題を「重点検討課題」として選定し、報告とそれを基にした議論を行っています。今回は「日向灘で起きる地震」を課題として、以下の①～④の報告がありました。

① 日向灘における地震活動の特徴

日向灘南部では約30年の間隔でM7級の大地震が繰り返し発生してきましたが、2024年の地震により、約60年の間隔で2つのグループが30年ずれて活動していると考えられることが明らかとなりました。震源域周辺のすべりに対応するひずみは、60年間隔で繰り返すM7級のプレート境界地震で概ね解消できています。一方で、プレートの沈み込みに対しては半分程度の解消に留まっており、残りは長期的ゆっくりすべりや非地震性すべり、1662年日向灘地震のようなM8級の巨大地震で解消している可能性があります。

② 1662年日向灘地震の断層モデル構築と津波浸水範囲の考察

日向灘で発生した歴史記録上最大の地震とされる1662年日向灘地震について、宮崎県沿岸にて津波の痕跡調査を行い、日南市小目井でイベント砂層を確認しました。歴史記録による津波の高さと地質調査による津波堆積物の分布範囲を拘束条件として、1662年日向灘地震の断層モデルを構築しました。断層モデルは宮崎県沿岸における津波痕跡や津波被害も説明でき、1662年日向灘地震がM8クラスの巨大地震の可能性を示唆しています。

③ 2024年日向灘地震とその余効すべりの過程に沈み込んだ海山が与えた影響について

国土地理院のGNSS観測網(GEONET)により、2024年日向灘地震(M7.1)に伴う地殻変動と、本震後のゆっくりとした地殻変動(余効変動)が検出されました。2024年日向灘地震のすべり域は1996

年10月、12月の日向灘地震のすべり域とは異なることがわかりました。2024年日向灘地震とその余効すべりの過程および過去の地震活動などの比較により、震源域の断層の力学特性が著しく不均質である可能性を指摘しました。こうした不均質性の原因として、九州・パラオ海嶺の沈み込みの影響が示唆されます。

④ 日向灘北部で発生する地震と南海トラフ地震との関係

日向灘北部は、宝永地震や安政南海地震においてすべりが生じた可能性があり、南海トラフの震源域に含まれると考えられます。1968年の日向灘北部の地震の震源域周辺については、シミュレーションの結果から、1707年の宝永地震以降に固着し、数百年かけて固着の剥がれが生じてきた可能性があります。その場合、日向灘北部の地震が発生して四国沖などの破壊が誘発される可能性や、東海～四国沖で地震が発生する際に日向灘北部まで破壊が及ぶ可能性があります。一方、日向灘南部までを含めたシミュレーションや九州・パラオ海嶺の沈み込みの影響の考慮については今後の課題です。

○次回の会議開催予定

第248回地震予知連絡会は、令和7年8月19日(火)に開催予定です。また、次回の重点検討課題は「地震予知・予測に関する概念の変化」です。

○会議資料の公開

本会議の資料は、地震予知連絡会ホームページから公開されています。

<https://cais.gsi.go.jp/YOCHIREN/activity.html>

(地理地殻活動研究センター)

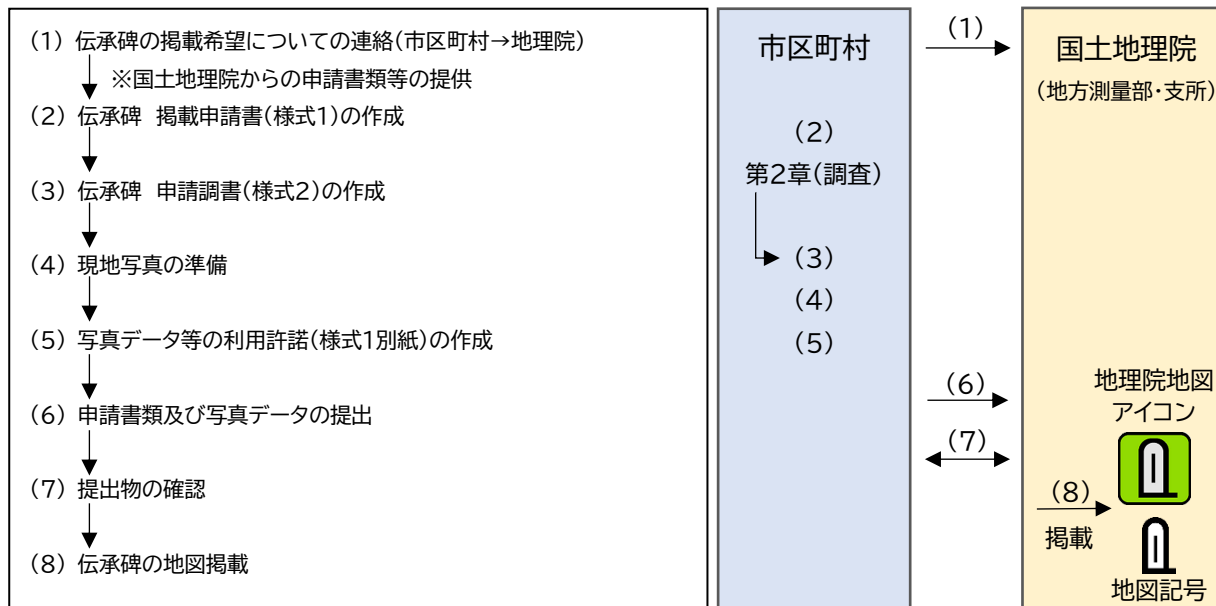
○「自然災害伝承碑」ウェブ地図「地理院地図」での公開数

令和7年5月29日現在

47	都道府県	662	市区町村	2359	基
----	------	-----	------	------	---

詳細については、自然災害伝承碑のページ(<https://www.gsi.go.jp/bousaichiri/denshouhi>)をご覧ください。
[市区町村の担当者の皆様へ]自然災害伝承碑に関する当院への情報提供にご協力をお願いいたします。

自然災害伝承碑の申請の流れ



様式や手続きの詳細は「自然災害伝承碑に係る調査業務 実施の手引き 第6版(令和6年3月)」
(https://www.gsi.go.jp/bousaichiri/denshouhi_info.html)をご覧ください。

○5月の報道発表

発表日	件名	担当部署
12日	令和7年4月の地殻変動	測地観測センター 地理地殻活動研究センター
14日	「測量の日」記念フェア2025を開催 ～6月3日は「測量の日」～	近畿地方測量部
15日	「日本水準原点 一般公開」及び「くらしと測量・地図展」を開催	関東地方測量部
16日	生徒・学生も応募歓迎！皆様の地理空間情報を活用した取組を募集します！ ～「Geoアクティビティコンテスト」作品募集開始～	防災・地理空間情報企画センター
20日	6月3日は「測量の日」です ～地図と測量に関する行事を全国で実施～	総務部
20日	2025「測量の日」特別企画を開催 ～地図・測量に興味深・新～	総務部
21日	火山土地条件図「日光白根山」「弥陀ヶ原」を公開 ～火山の成り立ちや火山災害リスクの把握に役立ちます～	応用地理部
29日	「測量の日」関連行事として第28回中国地区測量技術講演会を開催します	中国地方測量部

報道の内容は、国土地理院ホームページ>2025年 報道発表資料一覧
(<https://www.gsi.go.jp/WNEW/PRESS-RELEASE/press-2025.html>)をご覧ください。

○7月の主な行事予定

月日	行事
7/15～9/21	地図と測量の科学館 企画展「地図と測量に見る戦災からの復興」 「つくばエクスプレス開業20年 ー地図・写真から見る沿線の変化ー」

国土地理院広報は、
国土地理院ホームページ>広報誌>国土地理院広報
(<https://www.gsi.go.jp/WNEW/koohou/>)に掲載しています。

発行 **国土交通省国土地理院**
Geospatial Information Authority of Japan
〒305-0811 茨城県つくば市北郷 1 番
TEL 029-864-6255
FAX 029-864-6441



連絡先: 総務部広報広聴室
国土地理院ホームページ
<https://www.gsi.go.jp/>